

目標達成計画

作成日: 平成 23年 5月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4・10	【和らぎ】ご家族との連携が行事や運営推進会議などを通じて、昨年度より、少しずつ深まってきた。ただ、あまりご家族の意見や要望をお聞きするところまではいけていない。	行事や運営推進会議のご家族の参加を増やしていく。ご家族とスタッフが共に入居者を支えている関係になれるように、和らぎでの生活の様子を積極的にお伝えする。	面会時や毎月の広報誌、電話連絡を通して、積極的に入居者の様子や変わったこと、良かったこととお話をしする。また、GH和らぎ歓びの行事や事業運営についても、知って頂けるように、運営推進会議の参加を増やして頂けるように働きかける。	12ヶ月
2	23・24	【和らぎ】一人一人の入居者の生活の意向や好きなこと、興味の持てることの把握が、不十分に感じる。また、生活歴を重視した声かけや生活環境の把握ができていない方もおられる。	一人一人の生活歴を今まで以上に把握し、日頃の声かけに活かすことによって今までより、物盗られ妄想や、帰宅願望などの問題行動の訴えを減らすことができる。	日頃の言動をよくお聞きし、記録や申し送りに残し、各スタッフが、生活歴の把握に努める。また、面会時などで、ご家族にお聞きし、情報収集に努める。	12ヶ月
3	21・22	【歓び】利用者の介護度や認知症日常生活自立度の差があり、意思疎通のできない人への理解が困難で一部の利用者が非難することがある。	互いに思いやりを持ち助け合う精神で、苛立ちや傷つきの無い歓びを目指して行きたい。	自立度の高い人へのストレス軽減のため、楽しみや役割を作ったり、個別に外出をして気分転換を図ってもらう。また弱者を守るために、その方の尊厳を尊重し、今は病気でこうだけど、色々と出来て尊敬できる人だという事を伝えて理解してもらう様にする。その為には個々の人生背景を知る必要があり、全スタッフが情報を共有していくために、家族の面会時に話しを聞き申し送りノートを活用する。	12ヶ月
4	26・27	【和らぎ歓び】日々の生活記録がケアプランに沿った内容になっておらず、記録に時間を費やしてしまっている現状。センター方式のアセスメントに変え、記録もそれに沿ったものにしていかなければならない。	センター方式のアセスメントから利用者一人ひとりの人生を知り、今その人に何が必要で、どの様な事を求めているのかを掴む。そしてケアプランを活かした支援をすることにより、心身共に満足な生活を送って頂けるようにする。	まずは管理者自身がセンター方式の勉強をし、全スタッフに内部研修を行い利用者本位の支援を目指す。	6ヶ月
5	35	【和らぎ歓び】内部研修などで、非常災害に対して、繰り返し対応を検討・確認しているが入居者が重度化してきており、非常災害時の対応に不安がある。	各スタッフが、非常災害に対しての対応を迅速に行うことができる。避難訓練において、消防署の方にも参加して頂き、プロの目からみた避難経路の確認をしてもらう。	非常災害対応のマニュアルを1年に一回以上は、見直しを図る。また、非常災害のロールプレイや内部研修を通して、全スタッフが万が一に備えられるように訓練しておく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。